

【令和5年度 和泉市ジェンダー平等教育推進モデル校 取組み報告】

研究主題:一人ひとりを大切にする教育

～「ジェンダー平等教育」に関する指導を通じて～

和泉市立黒鳥小学校

「ジェンダー平等教育」指導計画(1年生、2年生、4年生、6年生)

【授業の流れ】

	流れ	指導上の配慮
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生の知り合い(友だち)の紹介をする。(おかっぱの男の子「ボクは男の子です」)(5分)</li> <li>★「ふつう」とは何かを考える。</li> <li>★いろいろな性があることを知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の反応によって臨機応変な対応を…</li> <li>「ふつうじゃない」という意見が出れば、ふつうって何だろうね?と考えさせる。</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の友だちを順に紹介する。(15分)</li> <li>体の絵を見せる。これは男の子?女の子?</li> <li>動画を見る。(7分) ゆうきからのお知らせとお願い</li> <li>絵本「自分を生きるためのルール」(4年、6年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの意見を否定しない。</li> <li>26人いたら26このふつうがあるね。ふつうって何だろう。</li> <li>体の形では心の性は決まらない。周りの人が勝手に性を決めることはできない。自分の心で考えて決めていい。</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふりかえり、交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の心の性はどうか。友だちはどうだろう。</li> </ul>

ゲストティーチャーによる出前授業(3年生、5年生)

【テーマ】性の多様性から自分について考える

【講師】にじいろ i-Ru(アイル)田中一步さん・近藤孝子さん

【内容】あたりまえとされる性のあり方の中で、生きにくさを感じ、「じぶん」を生きることができないセクシャルマイノリティとされる人たちがいること。セクシャルマイノリティとされる人たちが、家庭や学校、社会の中で多くの悩みや不安を抱えて生活していること。その悩みや不安の内容は、「誰にも言えないこと」「行ってはいけないこと」と思っている人が多いこと。性的指向と性自認が違うということ。様々なことからについて、講師の方のお友だちを紹介するという形で、お話をさせていただきました。

## ■1年生

【めあて】いろいろな性があることについて知る

【児童の感想】

- ・体は女の子だけど男になりたい人もいるんだね。自分は自分で決めてもいいんだね。いろんな人が自分のことをいろいろな名前と呼んでいいことがわかったよ。わたしの好きな人は、男と女です。
- ・男の子でもスカートの人を見たことがないから、スカートの人がいると思ってなかった。女の子でも男の人になりたい人がいてびっくりした。女の子でも男の子でもわからなくてもいいと知ってびっくりした。
- ・男の人が男の人を好きでもいいとわかった。男の子みたいだけど本当は女の子の人もあるってわかった。そんな人に会ったら、それもいいねと言いたい。

【成果】

まだ1年生なので、「男」や「女」についてこだわることは、日常生活の中では少ない。しかし、青のポケモンの鉛筆が落ちていたら「たぶん男のやで～」と言ったり、ピンク色のことを「女子が好きな色」と言ったりして、なんとなく性別への先入観は持っていた。

授業の中で、先生の知り合いを紹介するときに、はじめは「え～～～」とか「変や」とリアクションしていたが、「じゃあ普通って何？」「どの人が変？」と深めて考えると、みんなちがうけどそれでもいい、という意見があった。

1年生は、そもそも恋愛感情を理解している児童が少なく、初めて知ることが多い授業となった。しかし、この時期からジェンダーについて考えると、どんどん知識と考えが積み重ねられるので、今の時期にも必要な授業だと感じた。自分が心と体の性が違うかも、という違和感を持つ児童にとっては、心のもやもやを解決する手助けになると思う。今後も続けていきたい。

## ■2年生

【めあて】いろいろな性があることについて知る

【児童の感想】

- ・女の人でも男の人でも、心がちがう人がいることがわかった。見た目だけではんだんしてはいけないことがわかった。
- ・絵では、男の子と女の子のちがいがわからなかったけど、ビデオレターを見てすごいと思った。
- ・女の方は女の人とけっこんしていいってはじめて思いました。自ゆうに生きていけるって、はじめて知りました。
- ・男の子が女の子になったり、女の子が男の子になっても、みんな同じ人間だから、へんに言わなかったらみんな元気に楽しく生活できる。
- ・男の子と女の子は体がちがう。男の子が女の子のふくをきてもいいし、女の子が男の子のふくをきてもいいとわかった。

## 【成果】

始めに教材の絵を提示しながら「男の子と女の子のどちらだと思う？」の質問に対して、髪型や服装、身に着けている物の色などで判断している児童がほとんどであった。

次にそれぞれの教材に言葉を付け足していくと、予想していた性別とは違うことに驚き、ぼくや私、オレやうちなどの言葉の使い方にも着目しはじめて、自分が知っていることとは違う性別の考え方があることが分かってきた様子であった。

ビデオレター「ゆうきからのおしらせとおねがい」を見てからは、上記のような感想を持つ児童もふえてきたようであった。理解するにはまだ難しいことが多いが、知ることから始めることが大事だと、児童の反応を見て改めて考えることができた。

## ■3年生

### 【児童の感想】

- ・今日お話を聞いて、自分は自分として大事に生きなきゃなと思った。
- ・お話を聞いて、体で「男の子」「女の子」って決めてはいけないんだと思いました。
- ・自分のことは自分で決めていいんだ！と思いました。
- ・いろんな人がいるんだなと思った。人のことを自分が勝手に決めたらだめだなと思った。
- ・今日初めて、男の人でも女の子って思ったり、女の人でも男の子って思ったりする人もいるんだなと思いました。やっぱり着たい服や着たい下着を着てもいいんだと思ったり、自分のしたい髪形をしてもいいんだと初めてわかりました。
- ・私は自分のことを「ぼく」と呼んでいます。だから2番目に紹介された子と同じだなと思いました。そして1年生のころ、自分を「ぼく」と呼んでいたら、友だちに「ぼくってというのはへん」と言われて、「そうかな？」と思いました。だけど今日のお話で、「ああ、言ってもいいんだな」と思いました。
- ・これから、自分の心を大切にしようと思いました。
- ・お話を聞く前は、この体は男だな、この体は女だなと思っていましたが、話を聞き、男や女と思っているだけで、本当は違うこともあり、そのことは言いにくいことなんだと気づきました。

## 【成果】

子どもたちが、講師の方のお話を聞きながら、様々な場面で「普通は・・・」という言葉を目にしました。でも、その予想がことごとく覆された時、子どもたちは、生きてきた時間の中で、知らず知らずのうちに身につけている「普通」が、実は「普通」ではないということに気づきました。一人ひとりが自分らしく生きていくことができる社会を作るためにも、子どもたちは色々な人と出会い、その人らしさを受け入れていく心を育ててほしいと思いました。

また、普通は1つではないこと、それぞれに普通があって、その考えや気持ちを大事にしていくことを伝えていくことが、大人として大切なことだと感じました。

子どもたちの様子を見ながら、自分も同じ反応をすることが多く、特に「当たり前」と思っていることが自分にとって当たり前ではないことや、自分のことは自分で決めていいという言葉は強く響きました。自分のことを自分で決めるためには、ありのままの自分を受け入れてくれる大人や環境が大切だと感じました。

## ■4年

【ねらい】性の多様性について認める心を育む

【めあて】「ふつう」とは何かを考える

いろいろな性があることについて知る

### 【児童の感想】

- ・世界には、いろいろな考えを持つ人がいるのが分かった。自分をありのままに生きている人をほころしく思った。
- ・男(女)になりたくても、選んで生まれることはできないし、まわりがかってに決めつけたり、きずつけたりしたらあかんと思いました。どんな人でも区別はしたくないし、仲良くしたいと思いました。
- ・最初は、女の子なのに男の子と思っていることがおかしい、なんで？と思いました。でも、自分がそれでいいなと思ったら、それでいいんだと分かりました。いろんな人がいていいと思いました。
- ・自分らしく生きていけたら、それでいいんだと思いました。
- ・男だからとか女だからとか決めつけたらだめだと思った。
- ・見た目と心の性がちがう人がいることを知った。色々な人がいるから、これから相手の気持ちを考えようと思った。
- ・べつに同性を好きになってもいいし、人それぞれに「ふつう」があって、それは他人とちがっててもいいんだと思いました。
- ・ほかの人とちがっても悪口を言ったりしない楽しい世界がいいな。

### 【成果】

- ・まだ4年生だからか、「異性を好きになるのが当たり前だ」という意識は少なかったが、「男は～だ」「女は～だ」というような固定観念のようなものがあつた。授業をしてみたの実感や振り返りを見ると、そのような固定観念は少し崩れてきたと思う。ただ、子どもたちだけでなく、我々教員も「ふつう～だ」というような固定概念は崩していかないといけないと思った。
- ・様々な個性があることは伝えられた。「ちがい」を認め合える心をより一層育てていきたい。

## ■5年生

### 【児童の感想】

- ・性別、服など自分がやりたい方に好きに決めたらいいことがわかった。
- ・一番わかっているのは自分だから、自分の気持ちを大切にしようと思った。
- ・人の気持ちがわからないのに、人の性別、服などは絶対に決めつけてはいけない。相手が傷ついてしまう。
- ・性別の話では髪の毛や服で女性か男性で決めつけてはいけないことがわかった。
- ・家族にも友だちにも言えないことがあるから、無理に聞かないようにしようと思った。
- ・見た目で判断しないような大人になる。
- ・自分は意見を言うことが苦手だけど、話を聞いて自分のことを話してもいいかなと思いました。
- ・人それぞれちがうんだと思った。
- ・自分と違うからって笑ったり、バカにしたりしないことにします。
- ・はっきり信じてくれる人に言うと気持ちもすっきりするし、心もすっきりする。
- ・本当のことを教えてくれた相手もその人の気持ちをしっかりわかってくれて、子どもでも大人でも仲よくなったりとてもいい友だちになれる。

### 【成果】

- ・子どもたちに関わる時に大切にしなければならないことは、「ふつう」と決めつけてはいけないと思いました。
- ・受け入れる心と一人ひとりの個性を認められる心を育てていきたいと思います。
- ・大人が言った一言が子どもたちを苦しめたり、いい子どもでいなければならないと思わせてしまう可能性があることがわかりました。
- ・子どもたちに寄り添い、困っていることや悩み、苦しみを聞いていけるように意識したいと思います。

## ■6年生

【ねらい】性の多様性について認める心を育む

【めあて】「ふつう」とは何かを考える

いろいろな性があることについて知る

### 【児童の感想】

- ・もし自分がトランスジェンダーだと思っても、親や友だちに相談はできないから、LGBTの人が集まって話すことができる取り組みはもっと増えてほしいし、広まってほしいなと思った。
- ・誰かに自分のことを否定されても、自分らしく生きることが大切だと分かった。
- ・女子と女子が付き合うとか、女子なのに心は男子とか、そこまでいいように思ってなかったけど、こう思うのは間違ってるんだな、自分の偏見なんだなと思った。だからこれからは、まわりの人が女子なのに、女子が好きと言っても、しっかりと応援してあげたいし、自分ができることは、手伝ってあげたい。

・今回の学習は性別で悩んでいる人がこんな思いをして生きているのだなと思った。私は女だし、一人称も私だけど、完全に女の子でありたいとは思っていない。男の子に生まれてもっと、、、って考えるときもあるけど行動する勇気がまだ出せない。よく低学年に「なんでスカートじゃないの」と聞かれるけど、そういうのが聞かれないぐらい理解のある社会になれば生きやすくなるのかもしれない。ズボンをはいているから完全に男に見られたいとかはちがうし、どちらでもいい。うまく言葉に表せないけど『女』と『男』っていう風にどうしてもどちらかにならないと、決められなければならないのか、そういう常識が覆されたらいいのにと考えた。

#### 【成果】

LGBT について、聞いたことがあるという児童がほとんどだったが、詳しくは知らなかったり、単純に男が男を好き、女が女を好きとしか認識していなかったりする児童が多かった。今回の授業を通して、LGBT の本当の意味をくわしく知り、また映像などを見ることで、授業前とは認識が大きく変わった児童が多くいた。

また、自分と重ね合わせて考える児童もいたので、自分自身を見つめなおすことのできるいい時間にもなったのではないかと感じた。